

6 金融・保険業

◆ 概要

平成 16 年事業所・企業統計調査結果報告書によると京都市の金融・保険業における事業所数は 975 所、従業者数は 18,581 人である。平成 13 年調査と比較すると、事業所数は 106 所の減 ($\Delta 9.8\%$)、従業者数では 2,873 人の減 ($\Delta 13.4\%$) となっている。この要因としては、金融業界における「規模の経済性」の追求並びに「過剰設備」「過剰債務」「過剰雇用」の解消を狙った「選択と集中」「合併・再編」の結果によるものと考えられる。なお、事業所・従業員数の産業別内訳を見ると、特に貸金業・投資業等非貯金信用機関において、事業所数は 48 所の減 ($\Delta 16.1\%$)、従業者数では 681 人の減 ($\Delta 18.6\%$) となっているが、要因として、上限金利の引下げ等、貸金業者への規制が段階的に強化されたことによる影響と見られる〔表Ⅱ-6-1〕。

また、平成 16 年度京都市の市民経済計算によると、京都市の金融・保険業の市内総生産は 4,674 億 21 百万円となり、前年度比 3.2% の減少にとどまった〔表Ⅱ-6-2、図Ⅱ-6-1〕。

◆ 市内の金融・保険業の特色

京都は「信金王国」とであると言われる。協同組織金融業の一翼を担う信用金庫が京都市内において今日の地位を築いたのは、長い間京都市内に本店を置く地方銀行がなかったことに加え、各信用金庫が地域密着性をより重視し、顧客確保に動いてきたことが挙げられる。

金融・保険業の業種別構成を見ると、事業所数では、保険業が 389 所（構成比 39.9%）で最も多く、次いで貸金業・投資業等非貯金信用機関の 251 所（同 25.7%）、協同組織金融業 145 所（同 14.9%）と続いている。従業者数では、保険業が 6,183 人（構成比 33.3%）で最も多く、次いで銀行業の 4,151 人（同 22.3%）、協同組織金融業の 3,614 人（同 19.4%）と続いている〔表Ⅱ-6-1〕。

また、京都府内の金融機関における平成 16 年度末

業態別預貸金残高を見ると、預金残高及び貸出金残高ともに信用金庫の金額が最も多く、いずれも「信金王国」を示す結果となっている〔表Ⅱ-6-3〕。

「信金王国」とされてきた京都においても「金融ビッグバン」以降、金融再編の動きが及ぶ結果となった。近年の動向を見ても、平成 13 年 1 月、京都みやこ信用金庫及び南京都信用金庫が京都中央信用金庫へ事業譲渡され、現在京都市内に本店を置くのは京都中央信用金庫と京都信用金庫のみとなった。ちなみに、京都みやこ信用金庫の前身である伏見信用金庫は明治 38 年、酒どころ伏見を地盤として創業、同じく西陣信用金庫は大正 15 年、西陣の織物業者の信用組合として創業している。また、京都信用金庫は大正 12 年、証券業界を母体として、京都中央信用金庫は昭和 15 年京都市中央卸売市場信用組合として誕生している。つまり京都では、地元の基幹産業界が中心となって地域金融を支えてきたと言えるが、現在、その基幹産業が厳しい状況に置かれていることは想像に難くない。しかしながら、京都には「観光産業」「大学の街」「ベンチャー」等の「強み」がある。この「強み」を生かすべく、各金融機関においては、「神社仏閣など観光資源の修理・維持に係わる資金の特別長期融資（期間 50 年）」などをはじめ、ユニークな動きを展開している。また、厳しい経済環境の中、中小企業の再生が課題となっているが、再生支援融資への取組等、積極的な支援の動きも見られる。

表Ⅱ-6-1 産業（中分類）別事業所数及び従業者数（民営のみ）

（単位：所・人・％）

	事業所数				従業者数			
	平成16年	平成13年	増加数	増加率	平成16年	平成13年	増加数	増加率
金融・保険業	975	1,081	-106	-9.8	18,581	21,454	-2,873	-13.4
銀行業	140	154	-14	-9.1	4,151	4,424	-273	-6.2
協同組織金融業（注）	145	155	-10	-6.5	3,614	3,799	-185	-4.9
政府関係金融機関	3	5	-2	-40.0	99	154	-55	-35.7
貸金業・投資業等 非貯金信用機関	251	299	-48	-16.1	2,985	3,666	-681	-18.6
補助の金融業・金融附帯業	9	10	-1	-10.0	232	282	-50	-17.7
証券業・商品先物取引業	38	48	-10	-20.8	1,317	1,614	-297	-18.4
保険業	389	410	-21	-5.1	6,183	7,515	-1,332	-17.7

資料：京都市総合企画局「平成16年事業所・企業統計調査結果報告書」

注：平成13年調査から産業分類が改定され、「中小企業等金融業」及び「農林水産業」が「共同組織金融業」に統一された。

※平成16年は簡易調査結果

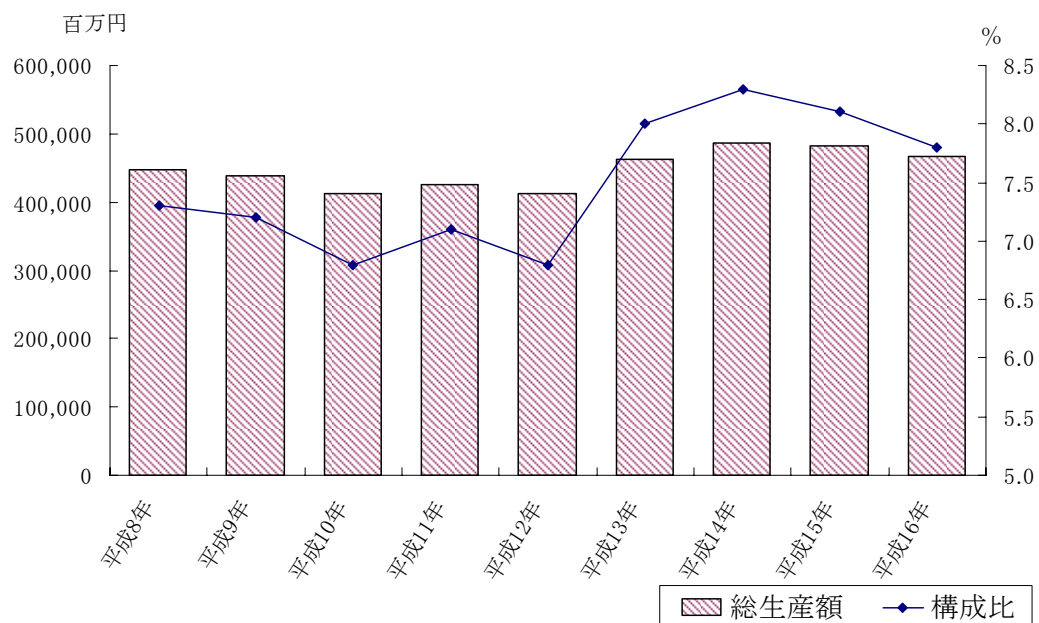
表Ⅱ-6-2 金融・保険業の総生産額と構成比の推移

(単位：百万円，％)

	総生産額	構成比
平成 8 年	446,244	7.3
平成 9 年	438,109	7.2
平成 10 年	413,418	6.8
平成 11 年	425,203	7.1
平成 12 年	412,237	6.8
平成 13 年	463,486	8.0
平成 14 年	485,835	8.3
平成 15 年	482,731	8.1
平成 16 年	467,421	7.8

資料：京都市総合企画局「平成 16 年度京都市の市民経済計算」

図Ⅱ-6-1 金融・保険業の総生産額と構成比の推移



資料：京都市総合企画局「平成 16 年度京都市の市民経済計算」

表Ⅱ-6-3 平成18年末主要業態別預貸金残高

(単位：億円)

		京都府
預金残高（注）		161,852
	都銀等	39,057
	地銀，第二地銀	51,920
	信用金庫	58,495
貸出金残高（注）		95,701
	都銀等	23,367
	地銀，第二地銀	34,417
	信用金庫	35,331

注：京都府分（信組，労金，農協，信漁連の計数を含む。）

資料：日本銀行京都支店